

# 2025年度JICA研修「土砂災害リスク削減」を実施しました ～研修の場を席卷するウーマンパワーに圧倒された4週間でした～

(一財)砂防・地すべり技術センター 企画部 国際課

何だこのタイトルは？と首を傾げた方もおられるでしょう。その説明は後ほど、きっと共感いただけるものと認識しております。

さて、JICA東京からJICA筑波に担当替えした「土砂災害リスク削減」研修を、STCが引き続きJICA筑波から受託し、実施するようになって早5年、新型コロナ禍の影響で2021・2022年はオンライン遠隔研修となり、地球の反対側の研修員には、知識、技術に眠気とストレスのおまけ付きの受講となりました。翌年からは来日対面研修が再開し、2023年は5名、2024年は7名と増加、2025年には10名の定員とプロジェクトのカウンターパート1名の11名が、アルメニア、インドネシア、エクアドル、スリランカ、ネパール、バングラデシュ、フィリピン、ブラジル、ベトナム、モザンビーク、ルワンダから来日しました。応募者28名から選抜された精鋭です。

今年度の研修は2025年6月2日から同26日まで実施しました。STCが20年以上実施している研修であり、様々な試行錯誤の結果、1カ月弱の短期間でも、研修フローに示すように効率的、実践的なものになっています。研修員の評価も上々で、最も貪欲、いや熱心なネパールの研修員のコメントを一部紹介します。「研修は非常によく構成されていて、特に講義と現地見学が論理的な順序で組み立てられていたことに感謝しています。ネパールの地形と状況に適した解決策を提案する自信が深まりました。」とのことです。ご指導くださった講師並びに見学先の皆

様、ありがとうございました。

さて、タイトルの説明ですが、このネパールの研修員を含め、参加研修員11名中7名が女性でした。しかも皆貪欲、もとい、熱心な女性達でした。講義、演習では鋭いコメントや質問が飛び交い講師をたじろがせ、現場見学ではヘルメット姿も凛々しく、予定時間を大幅に超えた質問に、説明者を困惑させ、ワークショップでは男性研修員を凌駕する勢いで参加する姿に、砂防の世界での女性のさらなる活躍の可能性を強く感じました。

女性、男性を分けてコメントするのは適当でないかもしれませんが、男性研修員も刺激を受け頑張っていました。所詮多勢に無勢、彼らの目立った行動が少ない印象でした。

研修で得た知識、技術に加え、カバンが閉まらないほどのお土産とともに帰国した研修員が、それらをどのように活用するかは研修員次第ですが、毎回、所属組織内での情報の共有をお願いしております。今回、インドネシア、エクアドル、ネパールそしてバングラデシュから、上司や同僚と研修で得た知識、経験を共有するイベントを行ったとのうれしい報告が届きました(次ページの写真)。早速、他の研修員にもお知らせし、同様の活動を奨励しております。なお情報を共有するイベントを行ったこの4名は、ご推察のとおり全員が女性なんです。今後もその調子で自国の土砂災害リスク削減のため、SABOの普及を目指し、ヤッチャエ！砂防女子！もちろん砂防男子も！



この計算はね！



仮設の足場も何のその！  
(華厳上流砂防堰堤整備事業)



女子会ワークショップ



インドネシア



エクアドル



ネパール



バングラデシュ

<研修フロー>

